

# 牧野 篤 自己紹介

1960年 愛知県生まれ

現在 東京大学大学院教育学研究科教授

東京大学高齢社会総合研究機構副機構長併任

専門 社会教育・生涯学習

人が生活の営みを続け、成長していくことに現れる  
さまざまな事象を通して、社会のあり方を考え、  
人が幸せに暮らすために何ができるのかを考えること、  
とくにコミュニティの自律と住民の学習とのかかわり  
に関心がある。

全国各地でまちづくりの実験的実践を行うとともに  
住民によるまちづくり実践の現場に足を運んでいる。

**農的な生活が  
おもしろい**

年収200万円で 豊かに暮らす!

牧野 篤  
Makino Atsushi  
東京大学大学院教育学研究科教授



会社やおカネに縛られない、  
生きなおし方がある!

都会で仕事や人間関係で生きづらくなっていた  
若者たちが実現した【豊田市の風山プロジェクト】—— さくら舎  
それに深くかかわった著者が明かす、可能性に満ちた

**もう一つの暮らしのつくり方!**

**つくる生活が  
おもしろい**



小さなことから始める  
地域おこし、まちづくり

牧野 篤  
Makino Atsushi  
東京大学大学院教育学研究科教授

いま生き心地のいい小さな社会が  
続々と各地で生まれている!  
人が戻りたくなる居場所をつくる!

下り坂社会のただなかにあっても、人が心地よく暮らせる社会、  
地域をつくるための模索が全国各地でなされている。  
その最前線をサポートする著者が示す、これからの生き方!

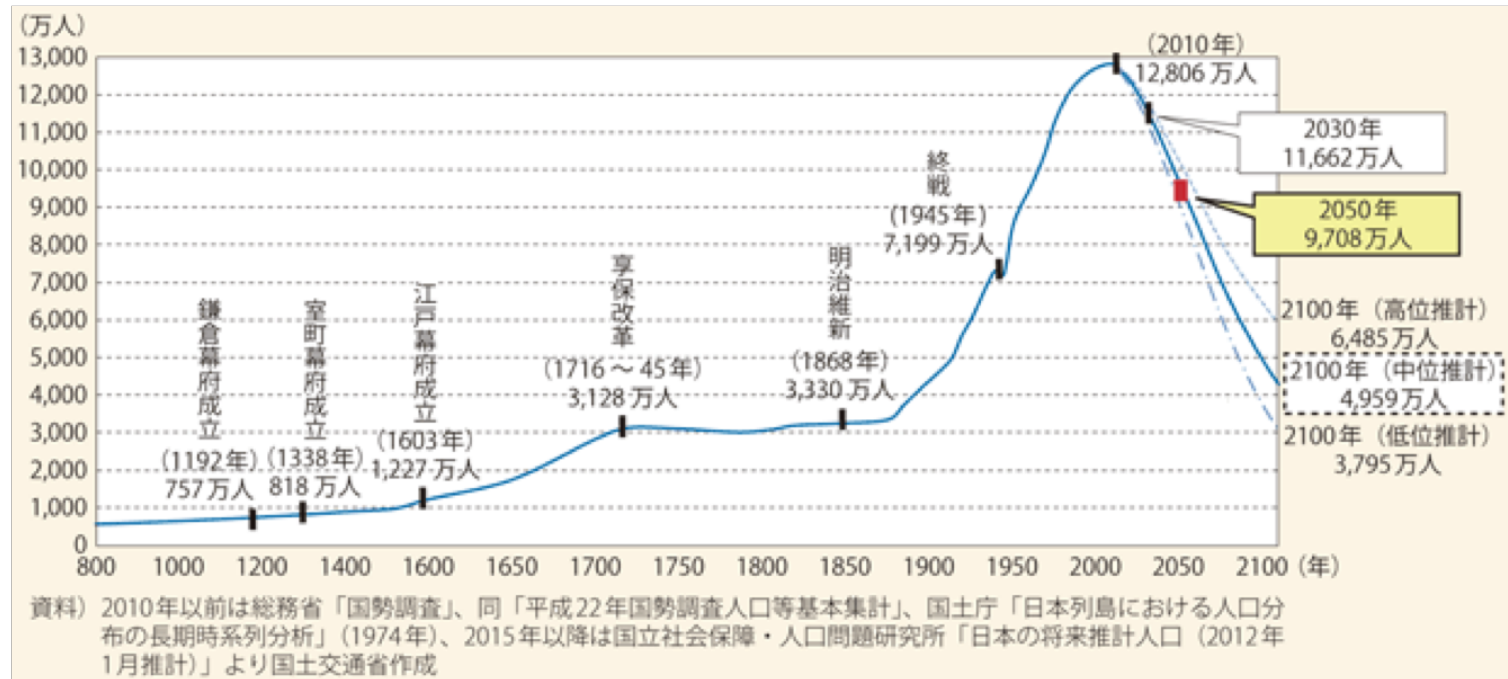
さくら舎

**「高齢社会」とはどのような社会なのか**

**「少子化社会」とはどのような社会なのか**

**「人口減少社会」とはどのような社会なのか**

# 日本の人口の長期変動

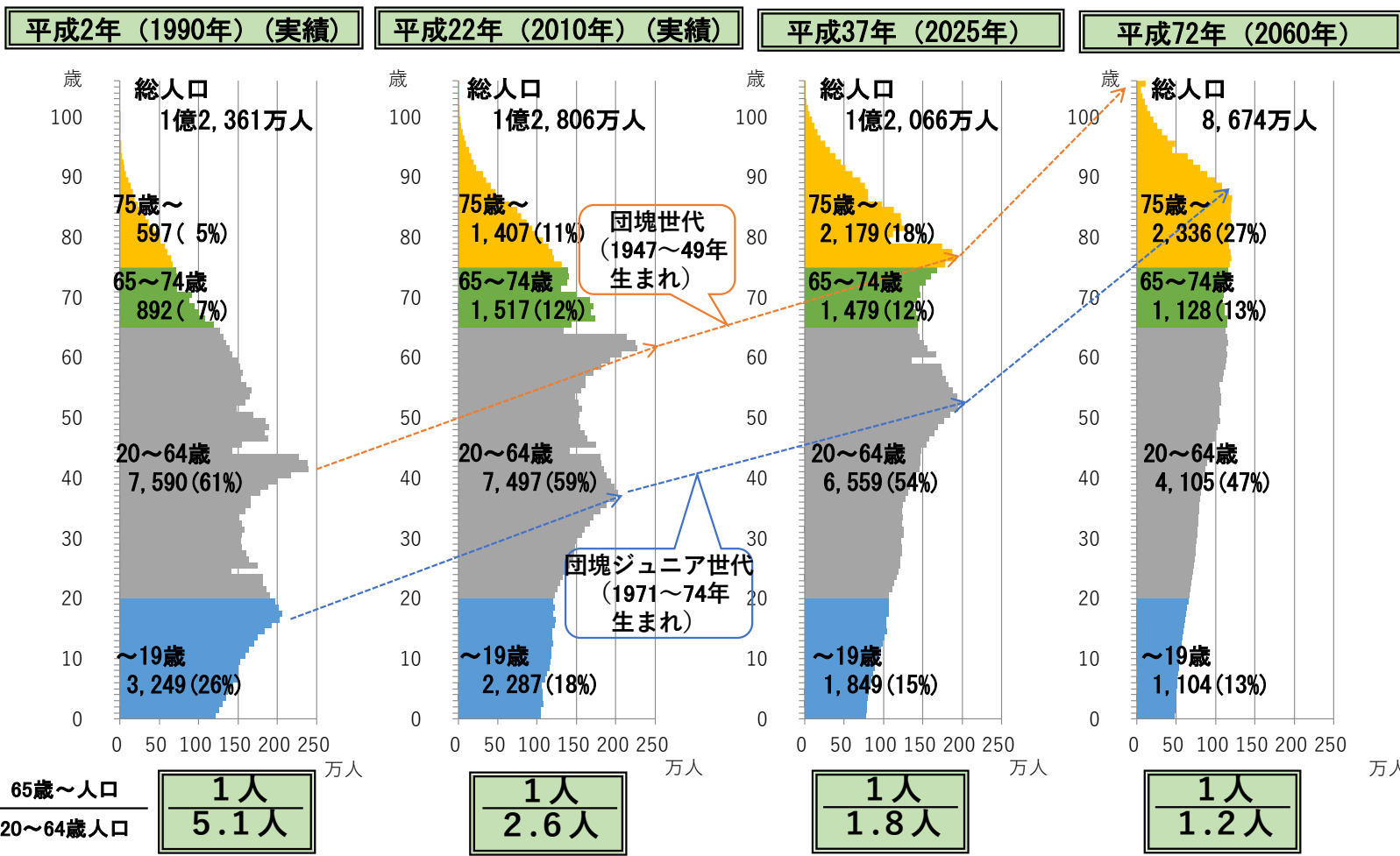


内閣府 平成17年度版少子化社会白書

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2005/17webhonpen/html/h1130010.html>

# 人口ピラミッドの変化（1990～2060年）

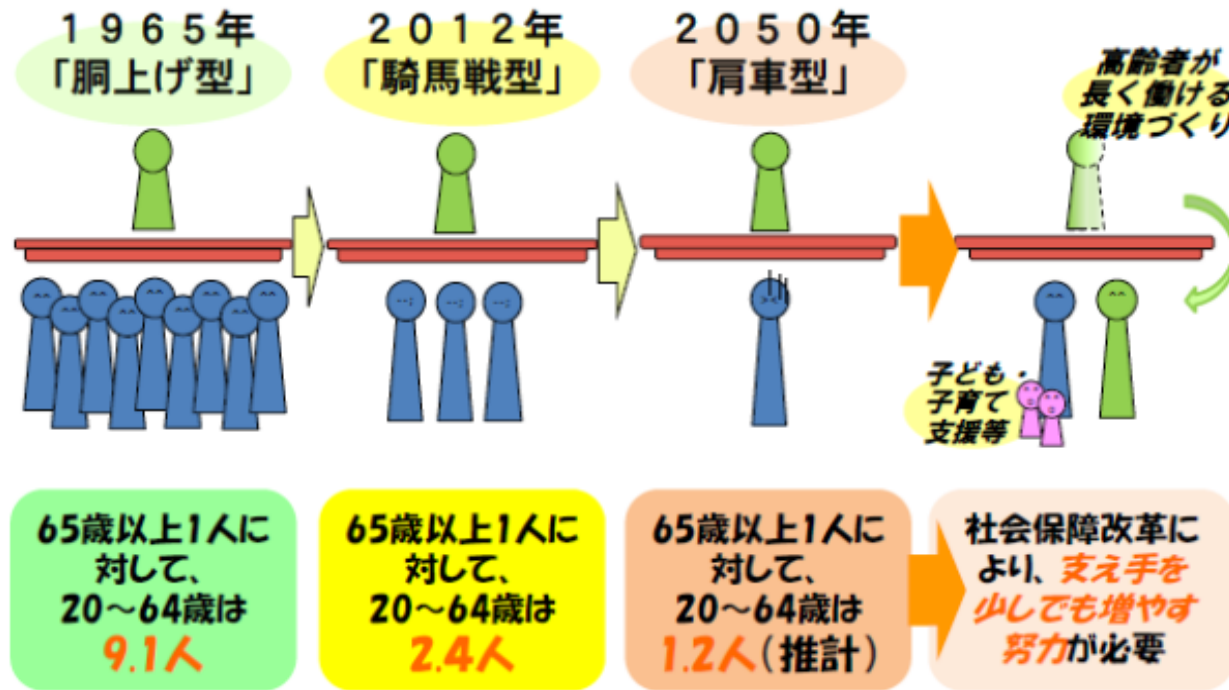
○ 日本の人口構造の変化を見ると、現在1人の高齢者を2.6人で支えている社会構造になっており、少子高齢化が一層進行する2060年には1人の高齢者を1.2人で支える社会構造になると想定



(出所) 総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）：出生中位・死亡中位推計」（各年10月1日現在人口）

# 社会全体の支え合い構造の見直しが必要

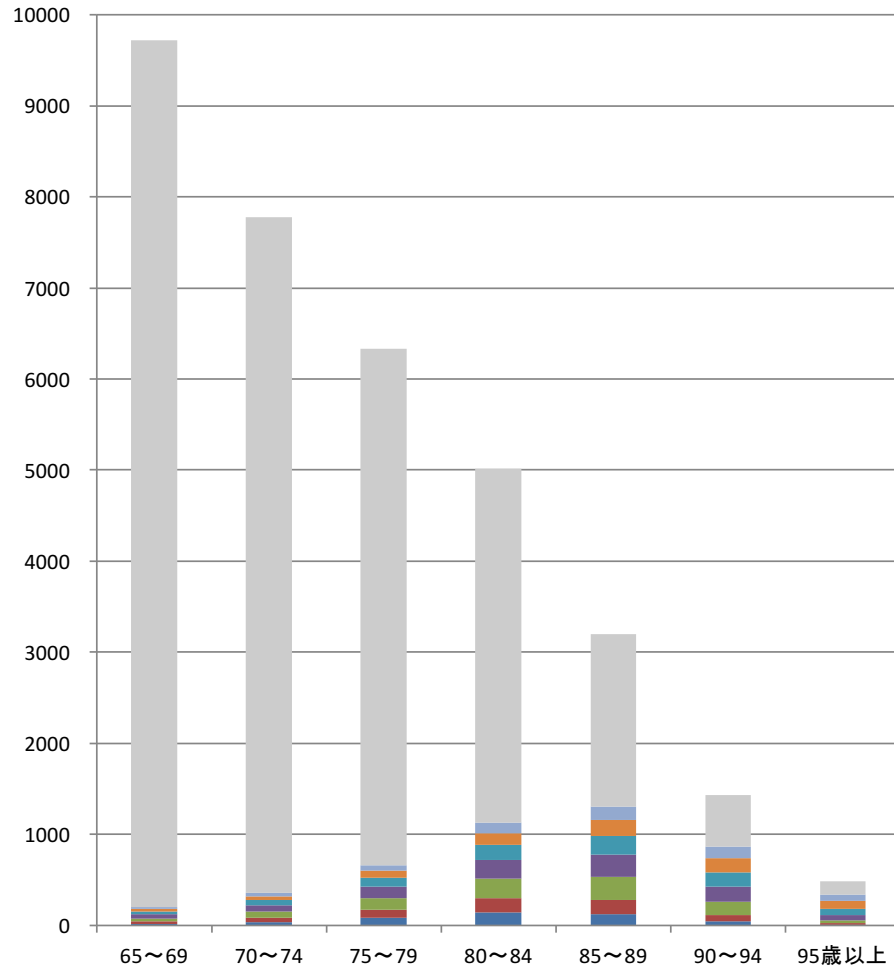
やがて「肩車型」へ～高齢者が社会の支え手になっていく必要がある



出典：財務省HP

# 年齢階層別要介護者の推計：2015年

千人



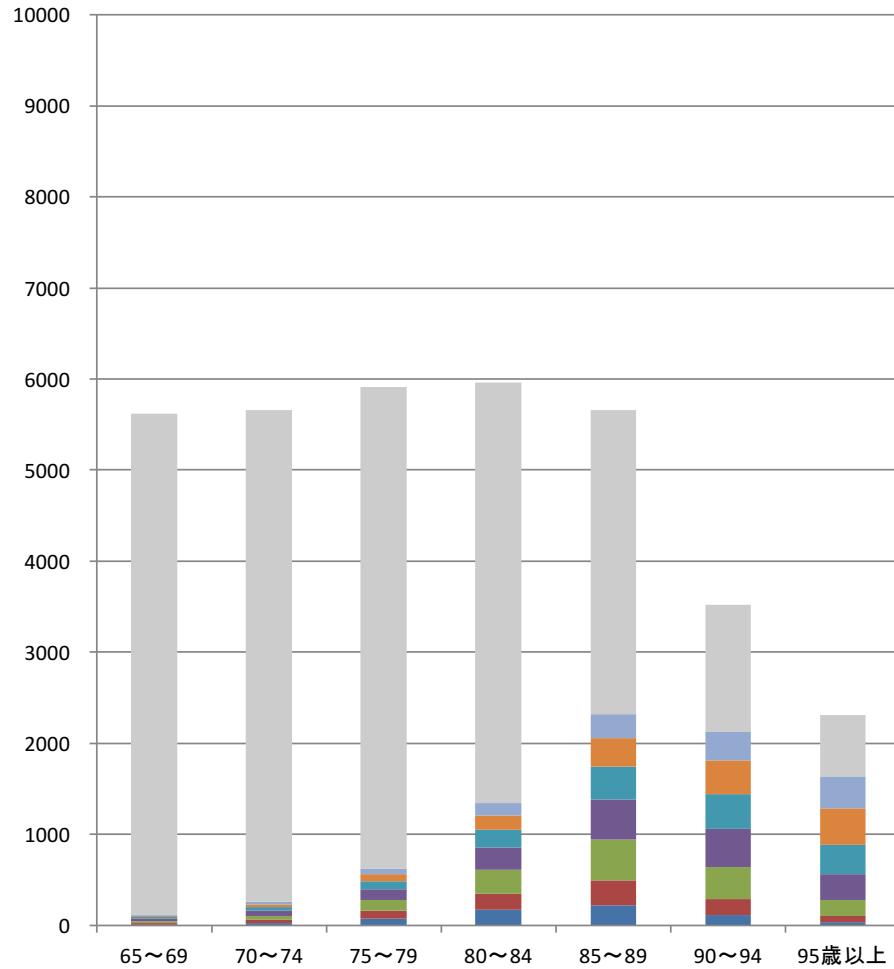
人口総数：12660万人  
 65歳以上人口：3395万人  
 65歳以上要介護者数：487万人  
 65歳以上要介護率：12.5%  
 75歳以上要介護率：26.1%

- 非介護者
- 要介護5
- 要介護4
- 要介護3
- 要介護2
- 要介護1
- 要支援2
- 要支援1

• ※介護給付費実態調査（平成22年11月審査分）による年齢別給付率と社人研人口中位推計から作成

# 年齢階層別要介護者の推計：2060年

千人

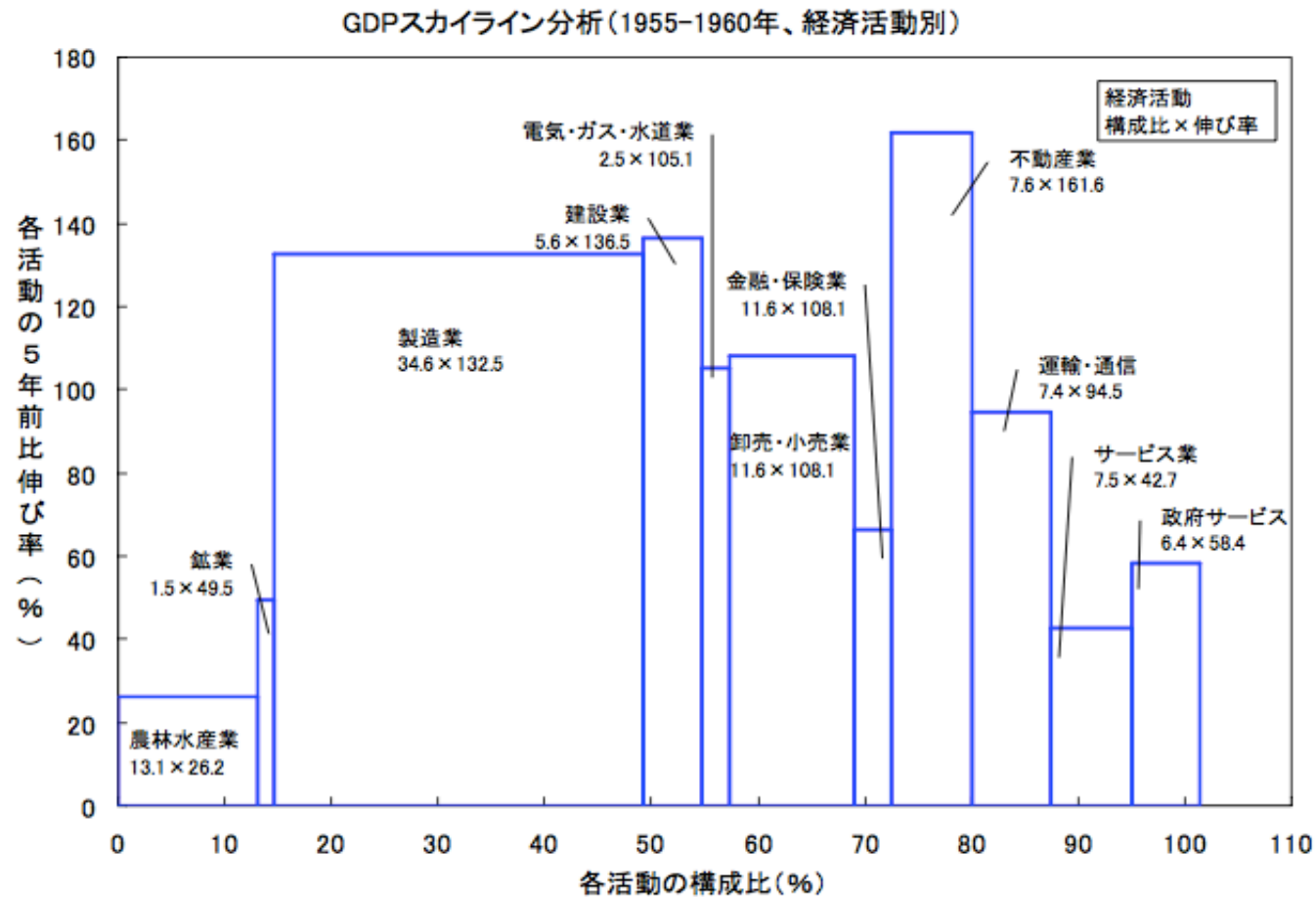


人口総数：8674万人  
 65歳以上人口：3464万人  
 65歳以上要介護者数：842万人  
 65歳以上要介護率：19.5%  
 75歳以上要介護率：34.4%

- 非介護者
- 要介護5
- 要介護4
- 要介護3
- 要介護2
- 要介護1
- 要支援2
- 要支援1

• ※介護給付費実態調査（平成22年11月審査分）による年齢別給付率と社人研人口中位推計から作成

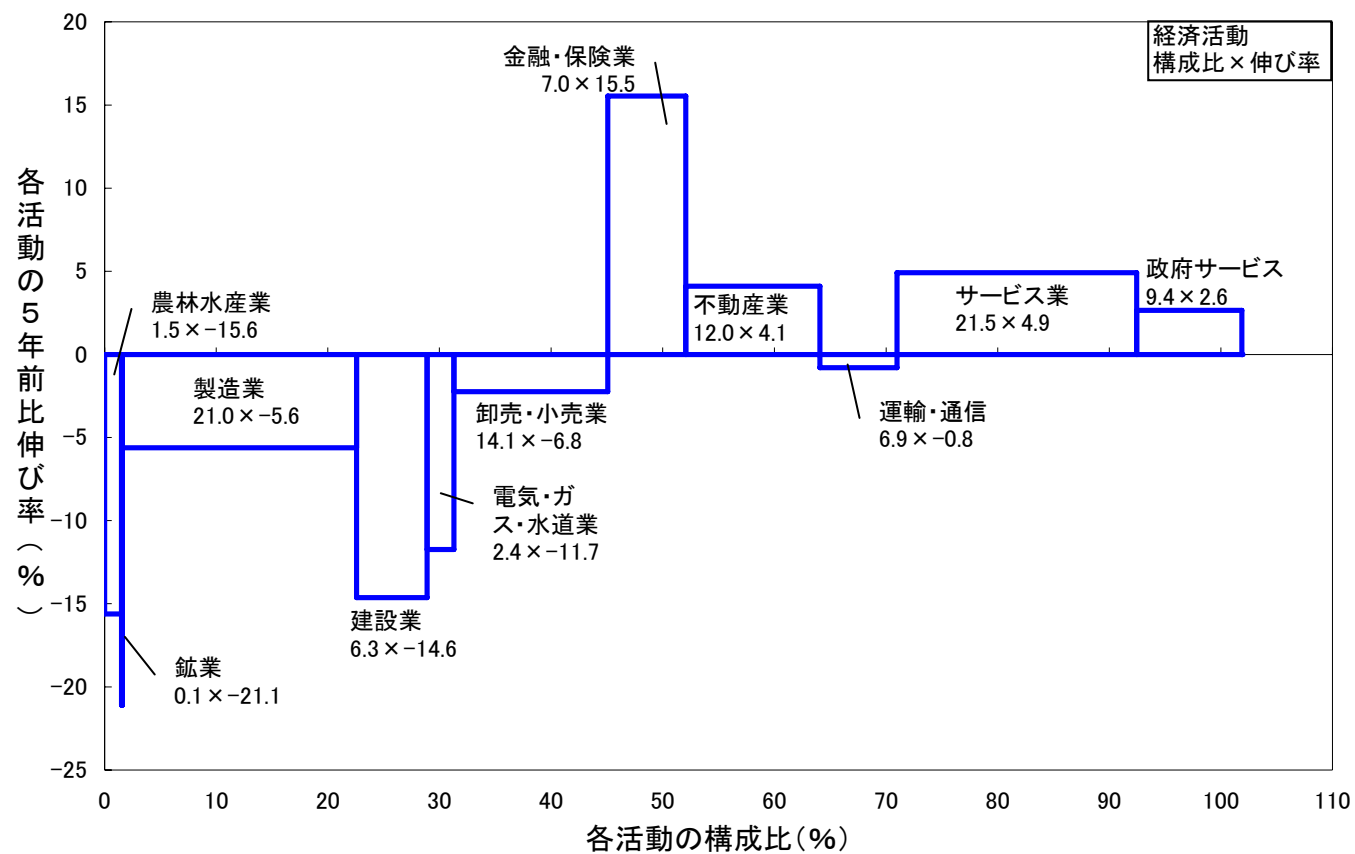
# 経済構造の変容



<http://www.rieti.go.jp/jp/publications/dp/09j024.pdf>



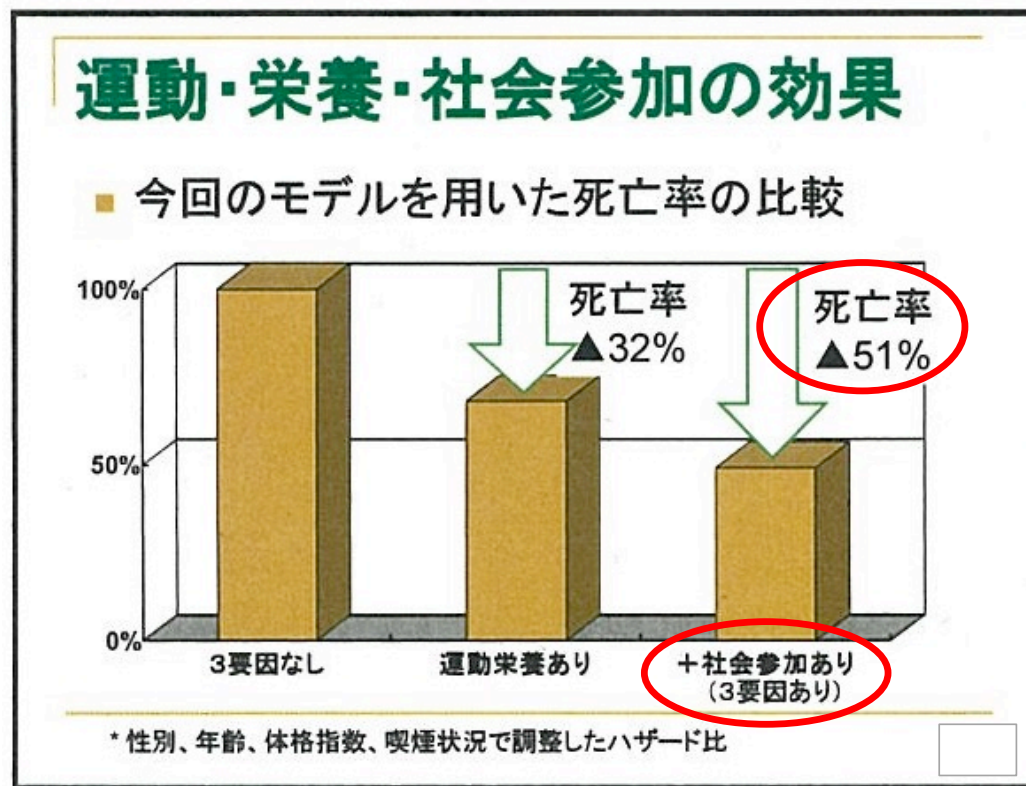
GDPスカイライン分析(2000-2005年、経済活動別)



# 静岡県高齢者コホート研究

【高齢者14,001人の追跡結果】

○運動・栄養について良い習慣を持つこと、更に**社会参加**により死亡率が大幅に低下

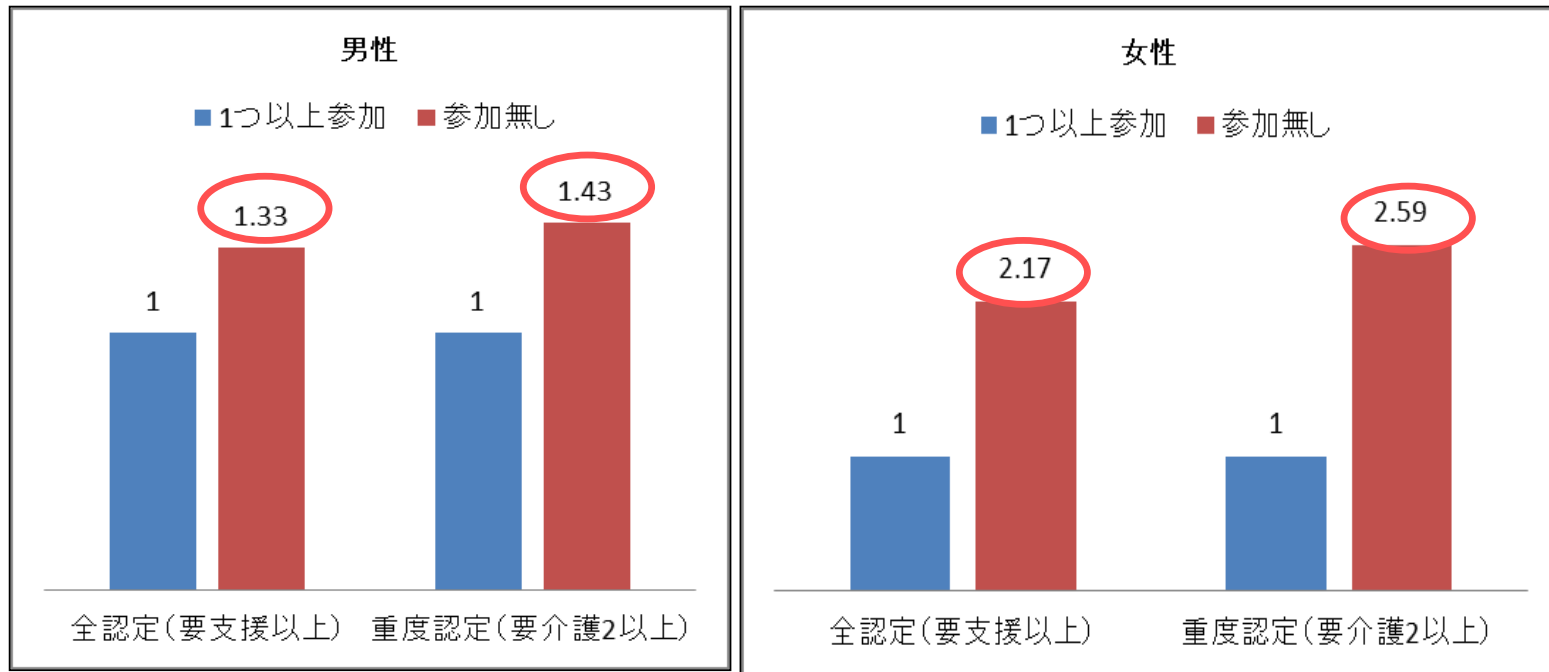


出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」、2012年  
東海公衆衛生学会、平山朋他

# AGESプロジェクトによる追跡研究

【要介護認定を受けていない高齢者9,702人を対象とした3年間の追跡調査】

○自主的グループ（「消費者団体」「ボランティア」「スポーツの会」「趣味の会」）に参加していない人は、**参加している人比べて要介護認定を受けるリスクが上がる傾向**

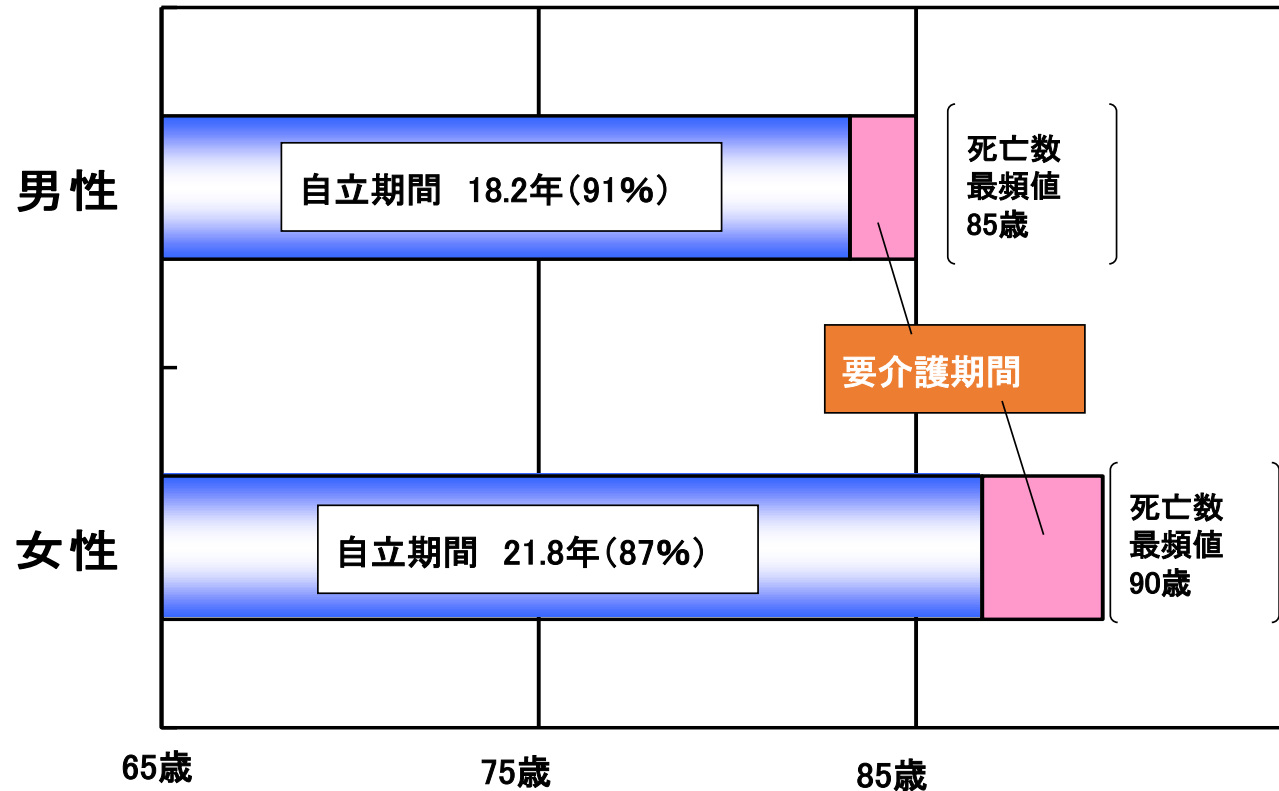


「地域在住高齢者の要介護認定のリスク要因の検討~AGESプロジェクト3年間の追跡研究」、2009、平井 寛他 より

# 人生は長い(老後の自立生活時間の長さ:推計)

**長い老後生活(※男性20年、女性25年)の9割は自立生活時間!**

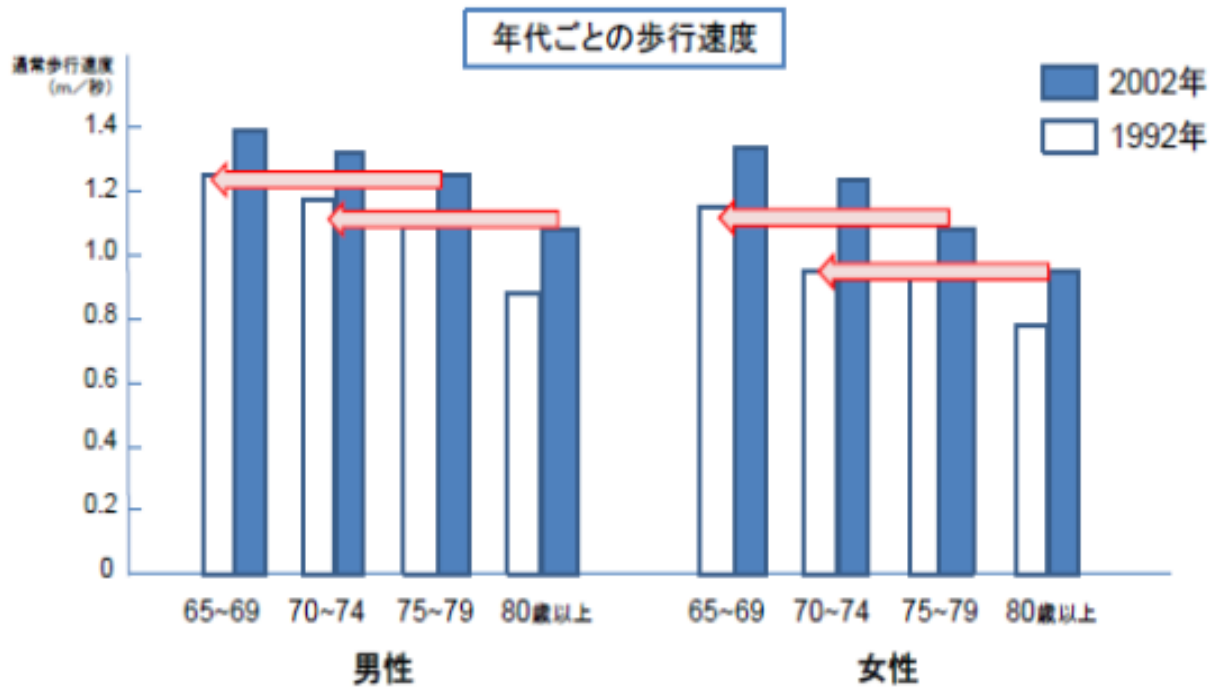
※死亡時年齢最頻値(厚生労働省「完全生命表(2005年)」-65歳より算出)



資料:平成12年版厚生白書(「保健医療福祉に関する地域指標の総合的開発と応用に関する研究」;平成9年度厚生科研費補助研究事業)をもとに作成

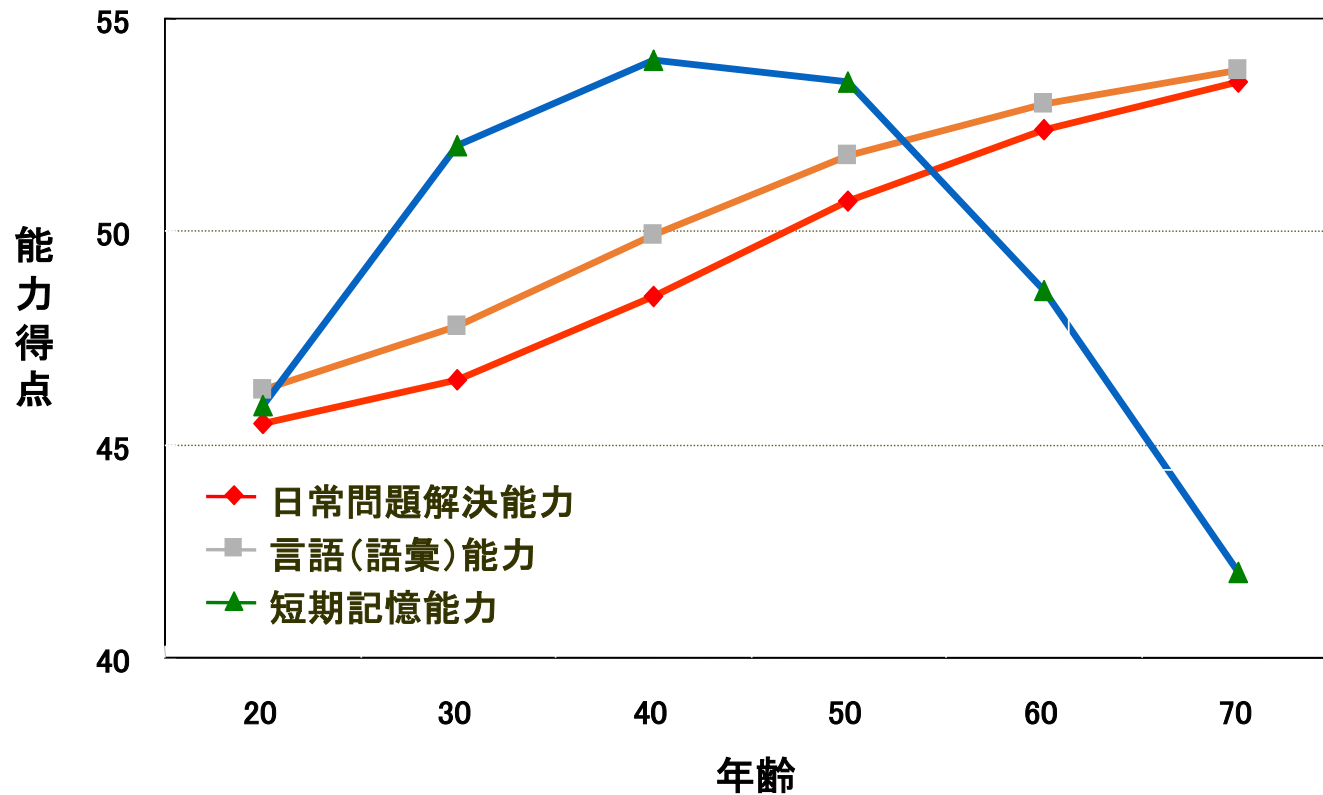
# 高齢者は若返っている

10年前(1992年)と今(2002年)の高齢者の通常歩行速度を比べてみると、男女ともに**11歳**若返っている！(ex.今の75歳は昔の64歳！)



資料: 鈴木隆雄他「日本人高齢者における身体機能の縦断的・横断的变化に関する研究」(第53巻第4号「厚生指標」2006年4月,p1-10)より引用

# 認知能力の年齢による変化



Cornelius and Caspi(1987, p150) より

これからの「社会」の  
大きなテーマ

# **ソーシャル:The Social (社会的であること)**

**地域コミュニティのあり方も  
The Socialとなる必要  
価値的に豊かになる**

**地域住民が「楽しく」生きる**

## つながりをつくる

つながり

緊密なつながり

緩いつながり

関心を持ちあう

社会に対する信頼感

自立=いざというとき

頼り頼られる関係がある

依存してもよいと思える

社会にとって  
こちらが重要



**この自分と世界を駆動する「運動」**

**これが〈学び〉**

**これが〈社会〉**

**この「運動」を組織する専門家**

**人の生活に寄り添い、**

**言葉にならない思いや感情に言葉を与え**

**対話をつくりだす人**

**+**

**行政課題へと練り上げる人**

**=新たな地域コーディネータ**

つながる つくる 暮らし楽しむ

## The Socialとしての 〈社会〉の構想へ

「学び」の社会基盤  
新しい市場社会  
The Socialの基盤としての  
住民と新たな専門職員

すべての人がフルメンバーとして  
活躍できる社会へ

そのための基礎をつくる  
地域コーディネータ

**小さな「社会」をたくさんつくる**